

白井市男女共同参画に関する
アンケート調査
結果報告書

令和7年3月

白井市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査実施の目的	1
2 調査概要	1
3 報告書の見方	2
第2章 調査結果のまとめ	3
第3章 住民意識調査の結果・分析	7
1 家庭生活について	7
2 仕事について	9
3 ワーク・ライフ・バランスについて	24
4 男女共同参画に関する意識について	31
5 ハラスメントやドメスティック・バイオレンス（DV）について	58
6 性と生殖に関する健康・権利について	69
7 子育てや小中学校での教育について	71
8 介護について	75
9 地域の活動について	78
10 防災・避難について	81
11 白井市への要望について	89
12 回答者自身について	91
第4章 市内在勤者調査の結果・分析	99
1 家庭生活について	99
2 仕事について	101
3 ワーク・ライフ・バランスについて	110
4 職場について	126
5 セクシュアル・ハラスメントについて	164
6 白井市への要望について	169
7 回答者自身のことについて	171
第5章 中学生調査の結果・分析	178
1 回答者自身のことについて	178
2 男女共同参画に関すること	179
3 将来に関すること	189
4 性別や心の性に関すること	195
5 デートDVに関すること	196
6 性教育に関すること	198
7 白井市が取り組むべきこと	199

第1章 調査の概要

1 調査実施の目的

本調査は、性別に縛られず誰もが自分らしく輝ける市の実現のために、市民の皆様のご意見やニーズをお伺いし、男女共同参画に関する計画の見直しのための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査概要

項目	住民意識調査	市内在勤者調査	中学生調査
調査対象者	市内在住の満18歳以上の方 (令和6年10月1日時点) (無作為抽出)	市内在勤者 (無作為抽出)	白井市立中学校2年生
調査期間	令和6年11月15日(金) ～12月6日(金)		令和6年12月13日(金) ～12月21日(土)
調査方法	郵送配布・郵送回収、 及びWEBによる本人回答方式		WEBによる 本人回答方式
配布数	2,000件	500件	655件
有効回収数	950件	230件	531件
有効回収率	47.5%	46.0%	81.1%

3 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇「その他」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの第1位に網掛けをしています。
- ◇集計対象者総数(n)が少ない(10件未満)クロス集計については、分析文の記載を省略しています。

第2章 調査結果のまとめ

家庭生活について

- ・家庭における男女の役割分担について、市民調査、市内在勤者調査ともに、理想は「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が53.4%（市民）、59.6%（市内在勤者）と最も高いものの、現実では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が37.5%（市民）、53.0%（市内在勤者）と最も高くなっています。

仕事について

- ・1日に家庭内の家事（育児・介護を含む）をどのくらい担っているかについて、市民調査、市内在勤者調査ともに、【平日】【休日】に関わらず、男性に比べ女性で家事の負担が多くなっています。一方、【平日】の男性については、前回調査では「していない、ほとんどしていない」が最も高くなっていましたが、今回調査では減少しており、男性の家事等への参加が進んでいる状況が見られます。
- ・女性の働き方に対する考え方について、市民調査、市内在勤者調査ともに、全体では「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい」が最も高くなっています。また、女性は男性に比べると「出産や育児にかかわらず、仕事を持ち続けた方がよい」が高くなっています。
- ・将来の昇進の希望について、市民調査では女性は男性に比べて「昇進したくない」が高く、31.7%となっています。また、将来的にはどのような職層で働きたいかについて、市内在勤者調査では女性は男性に比べて「管理職（管理職手当がある者）」の割合が17.9%と低くなっており、管理職になりたくない理由については、「管理職になると、責任が重くなるから」「現在の地位が自分に適しているから」が43.5%と最も高くなっています。
- ・育児や介護があっても仕事を継続できるようにするために必要なことについて、市民調査、市内在勤者調査ともに、「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が72.9%（市民）、85.2%（市内在勤者）と最も高くなっています。

職場について

- ・育児・介護をする立場になったら育児・介護休業を取得したいかについて、市内在勤者調査では「取得したいと思う」が69.1%と最も高く、次いで「取得したいと思うが、取得しない」が20.0%、「取得したいと思わない」が6.1%となっています。取得しない主な理由については、「職場の同僚の負担が増えて迷惑がかかると思うから」が55.0%と最も高く、「仕事が忙しく取得できる状況にないから」も43.3%と高くなっています。
- ・家事への関わりが少ない男性が、より関わることをするために必要なことについて、市内在勤者調査では「男性が育児・介護休暇を取りやすくすること」が52.2%と最も高く、次いで「男性自身の意識を高めること」が43.0%、「仕事中心という社会全体のしきみを改めること」が40.9%

となっています。

ワーク・ライフ・バランスについて

- ・生活の中における仕事・家事・プライベートな時間の優先度について、市民調査、市内在勤者調査ともに、理想は「仕事・家事・プライベートを両立」が49.8%（市民）、59.6%（市内在勤者）と最も高いものの、現実には12.1%（市民）、14.3%（市内在勤者）と大きく乖離しています。
- ・ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていると思うかについて、市民調査、市内在勤者調査ともに、全体では「ややとれている」が最も高いものの、性・年代別にみると、40歳女性と30歳代男性（市民）、30歳代男女と60歳以上男女（市内在勤者）で「あまりとれていない」が最も高くなっています。うまくとれていない理由は、市民調査、市内在勤者調査ともに、全体で「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が最も高くなっています。

男女共同参画に関する意識について

- ・男女の平等観について、市民調査では〈職場〉〈社会通念〉〈政治の場〉〈全体〉において、『男性優遇評価』の割合がいずれも半数以上と高くなっています。
- ・男女共同参画に関する言葉の認知度について、市民調査では〈リプロダクティブ・ヘルス／ライツ〉〈ポジティブ・アクション〉〈アンコンシャス・バイアス〉〈デートDV〉で「知らない」がいずれも半数以上となっています。また、年代が上がるにつれて〈ジェンダー〉〈ワーク・ライフ・バランス〉〈ポジティブ・アクション〉〈デートDV〉で「知らない」の割合が高い傾向にあります。中学生調査では〈男女共同参画社会〉〈ワーク・ライフ・バランス〉〈アンコンシャス・バイアス〉で「知らない」がいずれも3割以上と高くなっています。
- ・アンコンシャス・バイアスの経験（今までに「女の子だから～しなさい（しちゃダメ）」「男の子だから～しなさい（しちゃダメ）」と言われた経験）について、中学生調査では「言われたことはない」が52.5%と最も高く、次いで「ときどきいわれる」が37.7%、「よく言われる」が9.0%となっています。どんなことについて言われたかについては、「言葉づかい」が41.1%と最も高く、次いで「座り方や歩き方」が39.9%、「着ている服や髪型、身だしなみ」が38.7%となっています。
- ・家族の役割について、中学生調査では「男女ともに協力して行うべき」が〈家事（掃除や洗濯、料理など）〉〈子育てや子どものお世話〉〈祖父や祖母等の家族の介護〉で9割前後となっていますが、〈家族のために働いて生活費を得ること〉では72.1%となっており、「どちらかといえば男性がした方がよい」「主に男性がした方がよい」を合わせた『男性優遇評価』の割合は27.3%とやや高くなっています。

ハラスメント・DVについて

- ・配偶者や恋人等パートナーからのDV（身体的暴力、精神的暴力、性的強要、経済的圧迫）の状況について、市民調査では「したことがある」「されたことがある」「したことも、されたことも両方ある」経験のある方はいずれも1割前後となっています。また、そのことについて「どこ（だれ）にも相談しなかった」が53.4%と半数以上となっています。

性別や生殖に関する健康・権利について

- ・性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで特に必要だと思うことについて、市民調査では「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が50.9%と最も高くなっています。
- ・身体の性別や心の性について悩んだ経験について、市民意識調査・中学生調査では「ほとんどない」が23.4%（市民）、32.8%（中学生）となっており、「多少ある」が6.1%（市民）、12.8%（中学生）となっています。

子育てや小中学校での教育について

- ・学校教育の中で男女平等の意識を深めるために特に大切だと思うことについて、中学生調査では「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が53.6%と最も高くなっています。また、体や心について学んでいきたいことについて、中学生調査では「特に知りたいことはない」が30.1%と最も高く、次いで「ジェンダーの多様性、LGBTQ+について」が27.1%、「思春期の心理について」が26.9%となっており、特に男性は女性に比べて「特に知りたいことはない」が高くなっています。

介護について

- ・介護が女性の役割になりがちなことにどう思うかについて、市民調査では男女ともに「男性も積極的に取り組む方がよい」が最も高く、特に女性で67.2%、男性で50.5%と、女性の割合が高くなっています。また、前回調査と比較すると「男性も積極的に取り組む方がよい」が6.2ポイント高くなっています。

地域活動や防災について

- ・地域活動への参加状況については、市民調査では「参加したいが、できていない」が38.1%と最も高く、比較的若い年代で「参加するつもりがない」が高くなっています。
- ・地域活動に女性がリーダーとして参画することについて、市民調査では男女ともに「女性も積極的に参画するほうがよい」が最も高く、女性で60.2%、男性で74.6%となっています。また、女性は男性に比べて「女性が参画することには賛成だが、現実には難しい」が高くなっています。

白井市への要望について

- ・男女の共同参画を進めるために取り組むべきことについて、市民調査では「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が44.4%と最も高く、次いで「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が43.3%、「学校での男女平等教育を進める」が30.7%となっています。また、市内在勤者調査では、男女の共同参画を進めるために市が特に力を入れて取り組むべきだと思うことは、全体で「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が57.4%と最も高く、次いで「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が45.7%、「ひとり親（母子・父子）家庭を援助する」が31.7%となっています。
- ・中学生調査では、性別にかかわらず、誰もが自分らしく輝けるまちにするために取り組むべきことは、「男女ともに仕事と家庭を両立できるようにする」が46.1%と最も高く、次いで「仕事とプライベートのどちらも大切にできるような働き方を広める」が41.6%、「性別にかかわらず職業や仕事の内容を選べるよう、会社などに呼びかける」が32.2%となっています。

第3章 住民意識調査の結果・分析

1 家庭生活について

問1 あなたが理想とする男女の役割分担に、最も近いものはどれですか。また、現在のご家庭の状況（一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況）に、最も近いものはどれですか。

※家事には、育児・介護を含みます。

A 理想は（1つに○）[共通設問：市内在勤者調査…問1 A]

理想とする男女の役割分担は、全体で「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が53.4%と最も高く、次いで「特に何も決めず、できる人ができることをする」が28.2%、「男性が働き、女性が家事全般をする」が9.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が最も高く、女性で61.4%、男性で45.3%となっています。

性・年代別でみると、30歳代男性では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」「特に何も決めず、できる人ができることをする」、その他の年代では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が最も高くなっています。

単位：％		全男性が働き、女性が家事	全女性が働き、男性が家事	す事男性は主として働き、女性が家事	す事男性は主として働き、男性が家事	す事男性も男性が共に働き、女性も共に家事	人が何も決めず、できることをする	わからない	不明・無回答
全体(n=950)		9.3	-	3.4	0.3	53.4	28.2	2.4	3.1
女性	女性全体(n=497)	6.0	-	1.4	0.6	61.4	26.4	1.8	2.4
	29歳以下(n=39)	15.4	-	2.6	-	53.8	28.2	-	-
	30歳代(n=34)	5.9	-	-	2.9	58.8	32.4	-	-
	40歳代(n=88)	5.7	-	-	1.1	65.9	23.9	3.4	-
	50歳代(n=99)	3.0	-	2.0	-	69.7	24.2	-	1.0
	60歳代(n=84)	6.0	-	2.4	-	65.5	22.6	1.2	2.4
	70歳以上(n=145)	5.5	-	1.4	0.7	53.8	29.0	3.4	6.2
男性	男性全体(n=422)	13.0	-	5.7	-	45.3	30.3	2.6	3.1
	29歳以下(n=30)	10.0	-	-	-	60.0	30.0	-	-
	30歳代(n=38)	2.6	-	2.6	-	44.7	44.7	5.3	-
	40歳代(n=68)	10.3	-	1.5	-	50.0	36.8	1.5	-
	50歳代(n=80)	15.0	-	7.5	-	42.5	31.3	1.3	2.5
	60歳代(n=69)	11.6	-	5.8	-	50.7	24.6	4.3	2.9
	70歳以上(n=126)	18.3	-	8.7	-	38.1	25.4	2.4	7.1

B 現実（１つに○）〔共通設問：市内在勤者調査…問Ⅰ B〕

現実の男女の役割分担は、全体で「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が37.5%と最も高く、次いで「男性が働き、女性が家事全般をする」が24.2%、「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が14.9%となっています。

性別にみると、女性では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が46.3%、男性では「男性が働き、女性が家事全般をする」が29.1%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が高くなっています。

性・年代別でみると、30～40歳代男性では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」、50歳代と70歳以上男性では「男性が働き、女性が家事全般をする」、その他の年代では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて30歳代女性では「男性が働き、女性が家事全般をする」が低くなっています。

単位：%		全男性 が働き 女性 が家事	全女性 が働き 男性 が家事	す事男 る全性 は女性 主が共 に働 女性 性が家	す事男 る全性 は女性 主が共 に働 男性 性が家	す事男 る全性 は女性 も男性 が共に 働 女性 が共に 家	人特 がで何 も決 めず、 をす る可 る	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=950)		24.2	0.3	37.5	0.2	14.9	12.5	6.0	4.3
女性	女性全体(n=497)	20.3	0.6	46.3	0.2	11.3	12.7	4.8	3.8
	29歳以下(n=39)	23.1	-	59.0	-	12.8	5.1	-	-
	30歳代(n=34)	5.9	-	58.8	-	23.5	8.8	2.9	-
	40歳代(n=88)	17.0	-	53.4	-	14.8	9.1	5.7	-
	50歳代(n=99)	17.2	-	55.6	-	11.1	10.1	6.1	-
	60歳代(n=84)	28.6	2.4	41.7	1.2	8.3	14.3	2.4	1.2
	70歳以上(n=145)	22.8	0.7	31.0	-	7.6	18.6	6.9	12.4
男性	男性全体(n=422)	29.1	-	27.0	0.2	19.4	13.0	6.9	4.3
	29歳以下(n=30)	26.7	-	46.7	-	16.7	10.0	-	-
	30歳代(n=38)	15.8	-	21.1	-	31.6	21.1	10.5	-
	40歳代(n=68)	23.5	-	25.0	-	33.8	13.2	1.5	2.9
	50歳代(n=80)	31.3	-	30.0	-	17.5	11.3	6.3	3.8
	60歳代(n=69)	21.7	-	39.1	1.4	17.4	8.7	10.1	1.4
	70歳以上(n=126)	38.9	-	19.0	-	8.7	15.9	7.9	9.5

第4章 市内在勤者調査の結果・分析

1 家庭生活について

問1 あなたが理想とする男女の役割分担に、最も近いものはどれですか。また、現在のご家庭の状況（一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況）に、最も近いものはどれですか。※家事には、育児・介護を含みます。

A 理想は（1つに○）[共通設問：住民意識調査…問1 A]

理想とする男女の役割分担は、全体で「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が59.6%と最も高く、次いで「特に何も決めず、できる人ができることをする」が23.5%、「男性が働き、女性が家事全般をする」が8.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が最も高く、女性で66.7%、男性で54.4%となっています。

性・年代別でみると、60歳以上女性では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」「特に何も決めず、できる人ができることをする」、その他の年代では「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が最も高くなっています。

単位：%		男性が働き、女性が家事全般をする	女性が働き、男性が家事全般をする	男性が主として働き、女性が主として働く	男性が主として働き、女性が主として働く	男性が主として働き、女性が主として働く	特に何も決めず、できる人ができることをする	わからない	不明・無回答
全体(n=230)		8.7	0.4	4.8	0.9	59.6	23.5	2.2	-
女性	女性全体(n=117)	5.1	-	1.7	-	66.7	24.8	1.7	-
	29歳以下(n=10)	10.0	-	-	-	60.0	30.0	-	-
	30歳代(n=23)	13.0	-	-	-	73.9	13.0	-	-
	40歳代(n=38)	2.6	-	5.3	-	60.5	31.6	-	-
	50歳代(n=31)	3.2	-	-	-	83.9	12.9	-	-
	60歳以上(n=13)	-	-	-	-	46.2	46.2	7.7	-
男性	男性全体(n=103)	13.6	1.0	7.8	1.9	54.4	19.4	1.9	-
	29歳以下(n=9)	-	-	11.1	-	44.4	44.4	-	-
	30歳代(n=18)	5.6	5.6	5.6	5.6	55.6	16.7	5.6	-
	40歳代(n=31)	16.1	-	6.5	-	64.5	12.9	-	-
	50歳代(n=28)	25.0	-	7.1	-	50.0	14.3	3.6	-
	60歳以上(n=15)	6.7	-	6.7	6.7	53.3	26.7	-	-

B 現実（１つに○）〔共通設問：住民意識調査…問Ⅰ B〕

現実の男女の役割分担は、全体で「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が53.0%と最も高く、次いで「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」が18.3%、「特に何も決めず、できる人ができることをする」が13.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が最も高く、女性で63.2%、男性で42.7%となっています。

性・年代別でみると、30歳代男性では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」「特に何も決めず、できる人ができることをする」、60歳以上男性では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」「特に何も決めず、できる人ができることをする」、その他の年代では「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」が最も高くなっています。

単位：％		全男性 が働き、 女性が家事	全女性 が働き、 男性が家事	す事男 る全性 る全性 は主と 共して 働きの 女性が 家事	す事男 る全性 る全性 は主と 共して 働きの 男性が 家事	す事男 る全性 る全性 は主と 共して 働きの 女性が 共に家	人特 がに 何も 決めず、 できる ことを する	わ か ら な い	不 明・ 無回 答
全体(n=230)		8.7	-	53.0	3.5	18.3	13.9	2.2	0.4
女性	女性全体(n=117)	5.1	-	63.2	3.4	17.9	8.5	0.9	0.9
	29歳以下(n=10)	-	-	60.0	-	20.0	10.0	10.0	-
	30歳代(n=23)	13.0	-	69.6	4.3	8.7	4.3	-	-
	40歳代(n=38)	2.6	-	68.4	7.9	15.8	5.3	-	-
	50歳代(n=31)	3.2	-	61.3	-	25.8	9.7	-	-
	60歳以上(n=13)	7.7	-	53.8	-	15.4	15.4	-	7.7
男性	男性全体(n=103)	13.6	-	42.7	1.9	19.4	18.4	3.9	-
	29歳以下(n=9)	22.2	-	33.3	-	11.1	11.1	22.2	-
	30歳代(n=18)	11.1	-	27.8	-	27.8	27.8	5.6	-
	40歳代(n=31)	3.2	-	58.1	-	25.8	12.9	-	-
	50歳代(n=28)	21.4	-	42.9	7.1	14.3	10.7	3.6	-
	60歳以上(n=15)	20.0	-	33.3	-	13.3	33.3	-	-

B 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【平日】（1つに○）

【共通設問：市内在勤者調査…問2 B】

平日の家庭内の家事などの1日平均時間は、全体で「2～3時間くらい」が21.3%と最も高く、次いで「1時間くらい」が16.0%、「していない、ほとんどしない」が13.5%となっています。

性別にみると、女性では「2～3時間くらい」が27.0%、男性では「1時間くらい」が25.6%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「4～5時間くらい」「2～3時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「1時間くらい」「30分未満」「していない、ほとんどしない」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下男女、70歳以上男性では「していない、ほとんどしない」、30歳代女性では「8時間以上」、40～60歳代女性では「2～3時間くらい」、70歳以上女性では「4～5時間くらい」、30～50歳代男性では「1時間くらい」、60歳代男性では「30分未満」が最も高くなっています。

単位：％		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体(n=950)		5.4	5.4	12.4	21.3	16.0	11.7	13.5	14.4
女性	女性全体(n=497)	9.3	8.2	21.5	27.0	8.5	4.8	7.0	13.7
	29歳以下(n=39)	12.8	-	-	7.7	15.4	25.6	33.3	5.1
	30歳代(n=34)	26.5	8.8	23.5	17.6	11.8	2.9	8.8	-
	40歳代(n=88)	13.6	9.1	27.3	31.8	6.8	4.5	5.7	1.1
	50歳代(n=99)	9.1	12.1	23.2	35.4	11.1	2.0	3.0	4.0
	60歳代(n=84)	3.6	10.7	20.2	40.5	7.1	6.0	2.4	9.5
	70歳以上(n=145)	4.1	6.2	23.4	17.9	5.5	0.7	6.2	35.9
男性	男性全体(n=422)	0.9	1.7	2.4	15.4	25.6	20.1	20.9	13.0
	29歳以下(n=30)	-	-	-	6.7	20.0	23.3	50.0	-
	30歳代(n=38)	2.6	5.3	5.3	18.4	44.7	13.2	10.5	-
	40歳代(n=68)	-	1.5	2.9	17.6	35.3	25.0	16.2	1.5
	50歳代(n=80)	-	1.3	1.3	16.3	33.8	26.3	20.0	1.3
	60歳代(n=69)	-	2.9	1.4	17.4	20.3	26.1	24.6	7.2
	70歳以上(n=126)	1.6	-	2.4	13.5	14.3	11.9	19.8	36.5

C 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【休日】（1つに○）

【共通設問：市内在勤者調査…問2 C】

休日の家庭内の家事などの1日平均時間は、全体で「2～3時間くらい」が22.6%と最も高く、次いで「4～5時間くらい」が14.5%、「1時間くらい」が13.8%となっています。

性別にみると、女性では「2～3時間くらい」が24.3%、男性では「1時間くらい」が22.3%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「4～5時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「1時間くらい」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下男女、70歳以上男性では「していない、ほとんどしない」、30歳代男女では「8時間以上」、40歳代女性では「4～5時間くらい」、50歳代男性では「1時間くらい」、その他の年代では「2～3時間くらい」が最も高くなっています。

単位：%		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体(n=950)		9.5	5.6	14.5	22.6	13.8	7.8	11.4	14.8
女性	女性全体(n=497)	12.5	8.9	21.3	24.3	7.0	4.2	7.2	14.5
	29歳以下(n=39)	10.3	-	7.7	5.1	12.8	23.1	35.9	5.1
	30歳代(n=34)	41.2	8.8	11.8	23.5	2.9	2.9	8.8	-
	40歳代(n=88)	25.0	9.1	27.3	26.1	6.8	3.4	1.1	1.1
	50歳代(n=99)	7.1	20.2	25.3	28.3	10.1	2.0	4.0	3.0
	60歳代(n=84)	6.0	10.7	23.8	33.3	6.0	4.8	4.8	10.7
	70歳以上(n=145)	5.5	2.8	19.3	21.4	4.8	0.7	6.9	38.6
男性	男性全体(n=422)	6.4	1.4	6.9	21.8	22.3	12.3	15.9	13.0
	29歳以下(n=30)	6.7	-	3.3	6.7	20.0	23.3	40.0	-
	30歳代(n=38)	26.3	7.9	7.9	18.4	21.1	7.9	10.5	-
	40歳代(n=68)	8.8	1.5	11.8	36.8	25.0	4.4	10.3	1.5
	50歳代(n=80)	5.0	-	10.0	27.5	28.7	15.0	11.3	2.5
	60歳代(n=69)	1.4	2.9	2.9	24.6	23.2	20.3	17.4	7.2
	70歳以上(n=126)	2.4	-	4.0	14.3	15.9	9.5	18.3	35.7

B 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【平日】（1つに○）【共通設問：住民意識調査…問2 B】

平日の家庭内の家事などの1日平均時間は、全体で「1時間くらい」が26.5%と最も高く、次いで「2～3時間くらい」が24.8%、「4～5時間くらい」が16.5%となっています。

性別にみると、女性では「2～3時間くらい」が33.3%、男性では「1時間くらい」が34.0%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「4～5時間くらい」「2～3時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「1時間くらい」「30分未満」「していない、ほとんどしない」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代と50歳代女性では「4～5時間くらい」、40歳代と60歳以上女性では「2～3時間くらい」、30歳代男性では「30分未満」、その他の年代では「1時間くらい」が最も高くなっています。

単位：％		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体(n=230)		4.3	4.8	16.5	24.8	26.5	13.5	9.6	-
女性	女性全体(n=117)	6.0	6.8	28.2	33.3	20.5	3.4	1.7	-
	29歳以下(n=10)	-	-	-	30.0	40.0	20.0	10.0	-
	30歳代(n=23)	8.7	17.4	39.1	13.0	17.4	4.3	-	-
	40歳代(n=38)	2.6	7.9	21.1	44.7	21.1	-	2.6	-
	50歳代(n=31)	6.5	3.2	38.7	32.3	19.4	-	-	-
	60歳以上(n=13)	15.4	-	30.8	38.5	15.4	-	-	-
男性	男性全体(n=103)	1.9	1.9	2.9	17.5	34.0	24.3	17.5	-
	29歳以下(n=9)	-	-	-	11.1	33.3	55.6	-	-
	30歳代(n=18)	-	5.6	5.6	27.8	16.7	33.3	11.1	-
	40歳代(n=31)	-	3.2	3.2	22.6	38.7	12.9	19.4	-
	50歳代(n=28)	3.6	-	-	10.7	39.3	25.0	21.4	-
	60歳以上(n=15)	6.7	-	6.7	13.3	33.3	20.0	20.0	-

C 家庭内の家事（育児・介護を含む）など【休日】（1つに○）【共通設問：住民意識調査…問2 C】

休日の家庭内の家事などの1日平均時間は、全体で「2～3時間くらい」が25.7%と最も高く、次いで「4～5時間くらい」が15.7%、「8時間以上」が15.2%となっています。

性別にみると、女性では「4～5時間くらい」「2～3時間くらい」が24.8%、男性では「2～3時間くらい」が28.2%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「8時間以上」「4～5時間くらい」が高く、男性は女性に比べて「1時間くらい」「30分未満」「していない、ほとんどしない」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性、40歳代男性では「2～3時間くらい」、30歳代女性では「8時間以上」、40歳代と60歳以上女性では「4～5時間くらい」、50歳代女性では「6～7時間くらい」、30歳代男性では「8時間以上」「2～3時間くらい」、50歳代男性では「30分未満」、60歳以上男性では「1時間くらい」が最も高くなっています。

単位：%		8時間以上	6～7時間くらい	4～5時間くらい	2～3時間くらい	1時間くらい	30分未満	していない、ほとんどしない	不明・無回答
全体(n=230)		15.2	13.0	15.7	25.7	14.3	8.3	7.8	-
女性	女性全体(n=117)	22.2	17.1	24.8	24.8	7.7	1.7	1.7	-
	29歳以下(n=10)	-	-	-	70.0	10.0	10.0	10.0	-
	30歳代(n=23)	47.8	13.0	13.0	17.4	8.7	-	-	-
	40歳代(n=38)	18.4	18.4	31.6	21.1	7.9	-	2.6	-
	50歳代(n=31)	19.4	25.8	22.6	22.6	9.7	-	-	-
	60歳以上(n=13)	15.4	15.4	46.2	23.1	-	-	-	-
男性	男性全体(n=103)	6.8	9.7	4.9	28.2	21.4	14.6	14.6	-
	29歳以下(n=9)	-	-	11.1	33.3	44.4	11.1	-	-
	30歳代(n=18)	22.2	16.7	-	22.2	16.7	11.1	11.1	-
	40歳代(n=31)	3.2	9.7	9.7	41.9	12.9	6.5	16.1	-
	50歳代(n=28)	-	7.1	3.6	21.4	21.4	28.6	17.9	-
	60歳以上(n=15)	13.3	13.3	-	13.3	33.3	6.7	20.0	-

問4 育児や介護があっても仕事を継続できるようにするにはどのような援助や対策が望まれる
 と思いますか。(あてはまるものすべてに○) [共通設問：市内在勤者調査…問5]

育児や介護があっても仕事を継続できるようにするために望まれる援助や対策は、全体で「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が72.9%と最も高く、次いで「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」が71.3%、「保育・介護施設や保育・介護制度が充実していること」が66.8%となっています。

性別にみると、女性では「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」が77.1%、男性では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が71.6%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」「病人や高齢者の世話が家族のだれか一人に任せられないようにすること」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下と70歳以上女性、70歳以上男性では「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」、30歳代女性では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」「保育・介護施設や保育・介護制度が充実していること」、60歳代女性では「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」、その他の年代では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が最も高くなっています。

単位：%		解 育 児や介護のとき、家族の理 解・協力を得ること	解 育 児や介護との両立につい て、職場内の同僚・上司の理 解が得やすいこと	配 属 や仕事の内容に他の従業 員と差を設けないこと	待 遇 （給与・昇進）に他の従 業員と差がないようにするこ と	機 会 や採用数を同等にするこ と	育 児 ・介護を行う社員の雇用 制度が充実していること	保 育 ・介護施設や保育・介護 制度が充実していること	病 人 や高齢者の世話が家族の だれか一人に任せられないよ うにすること	出 産 や育児・介護を機に家族 のうちだれかが仕事を辞める ことのないようにすること	育 児 休業や介護休業等が取り やすいこと	そ の 他	わ か ら ない	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=950)		71.3	72.9	20.6	31.6	25.1	66.8	56.3	41.2	66.0	3.2	5.1	1.4	
女性	女性全体 (n=497)	77.1	75.9	19.1	29.2	25.4	72.0	65.2	46.5	68.0	4.2	4.0	1.0	
	29歳以下 (n=39)	82.1	79.5	35.9	48.7	23.1	66.7	66.7	43.6	59.0	5.1	2.6	-	
	30歳代 (n=34)	79.4	85.3	20.6	26.5	23.5	85.3	52.9	41.2	73.5	14.7	-	-	
	40歳代 (n=88)	81.8	84.1	21.6	28.4	26.1	77.3	67.0	47.7	75.0	5.7	5.7	-	
	50歳代 (n=99)	77.8	87.9	13.1	26.3	24.2	70.7	71.7	54.5	70.7	4.0	-	-	
	60歳代 (n=84)	82.1	82.1	15.5	26.2	25.0	76.2	72.6	50.0	71.4	2.4	-	-	
	70歳以上 (n=145)	68.3	55.9	18.6	26.9	25.5	65.5	57.9	39.3	60.7	2.1	9.7	2.8	
男性	男性全体 (n=422)	66.4	71.6	22.5	34.4	24.9	62.3	47.2	35.1	65.2	1.9	5.5	0.7	
	29歳以下 (n=30)	63.3	76.7	36.7	36.7	23.3	50.0	40.0	30.0	70.0	3.3	3.3	-	
	30歳代 (n=38)	60.5	81.6	18.4	34.2	23.7	55.3	28.9	31.6	68.4	7.9	10.5	-	
	40歳代 (n=68)	70.6	85.3	30.9	32.4	33.8	64.7	48.5	32.4	70.6	1.5	2.9	-	
	50歳代 (n=80)	58.8	71.3	32.5	48.8	21.3	63.7	41.3	45.0	60.0	-	5.0	-	
	60歳代 (n=69)	72.5	76.8	14.5	36.2	26.1	69.6	58.0	42.0	72.5	-	-	2.9	
	70歳以上 (n=126)	68.3	59.5	14.3	25.4	22.2	61.9	53.2	29.4	61.1	2.4	8.7	0.8	

性・年代別でみると、29歳以下女性では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」「育児休業や介護休業等が取りやすいこと」、50歳以上女性では「育児や介護のとき、家族の理解・協力を得ること」、その他の年代では「育児や介護との両立について、職場内の同僚・上司の理解が得やすいこと」が最も高くなっています。

3 ワーク・ライフ・バランスについて

問2 「A 収入の得られる仕事」で「8時間以上」～「30分未満」と答えた方

問5 生活の中での、仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度について、「理想」と「現実」のそれぞれの視点で、あなたのお考えや現状に最も近いものはどれですか。

A 理想は（1つに○）[共通設問：市内在勤者調査…問6 A]

理想のワーク・ライフ・バランスは、全体で「仕事・家事・プライベートを両立」が49.8%と最も高く、次いで「プライベートな時間優先」が16.6%、「仕事とプライベート優先」が12.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高く、女性で53.8%、男性で44.9%となっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「プライベートな時間優先」、その他の年代では「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高くなっています。

単位：％		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	仕事・家事・プライベートを両立	わからない	不明・無回答
全体(n=614)		2.8	1.8	16.6	6.2	12.4	6.7	49.8	2.1	1.6
女性	女性全体(n=303)	1.0	1.7	15.5	5.9	10.9	7.6	53.8	1.3	2.3
	29歳以下(n=28)	-	-	39.3	7.1	28.6	3.6	21.4	-	-
	30歳代(n=28)	-	3.6	28.6	-	7.1	17.9	42.9	-	-
	40歳代(n=77)	-	1.3	11.7	3.9	9.1	9.1	61.0	2.6	1.3
	50歳代(n=82)	2.4	1.2	13.4	4.9	13.4	7.3	57.3	-	-
	60歳代(n=48)	-	-	12.5	10.4	6.3	6.3	62.5	2.1	-
	70歳以上(n=35)	2.9	5.7	2.9	11.4	2.9	-	54.3	2.9	17.1
男性	男性全体(n=296)	4.7	2.0	17.9	6.8	14.2	6.1	44.9	2.4	1.0
	29歳以下(n=23)	-	-	34.8	-	21.7	-	43.5	-	-
	30歳代(n=35)	-	5.7	20.0	2.9	14.3	22.9	25.7	8.6	-
	40歳代(n=66)	1.5	3.0	27.3	3.0	12.1	1.5	51.5	-	-
	50歳代(n=75)	5.3	1.3	16.0	10.7	14.7	8.0	42.7	-	1.3
	60歳代(n=51)	5.9	2.0	3.9	7.8	13.7	5.9	58.8	2.0	-
	70歳以上(n=39)	12.8	-	10.3	10.3	15.4	-	38.5	7.7	5.1

3 ワーク・ライフ・バランスについて

問6 生活の中での、仕事・家事（育児・介護を含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度について、「理想」と「現実」のそれぞれの視点で、あなたのお考えや現状に最も近いものはどれですか。

A 理想は（1つに○）〔共通設問：住民意識調査…問5 A〕

理想のワーク・ライフ・バランスは、全体で「仕事・家事・プライベートを両立」が59.6%と最も高く、次いで「プライベートな時間優先」が12.2%、「家事とプライベート優先」が9.1%となっています。

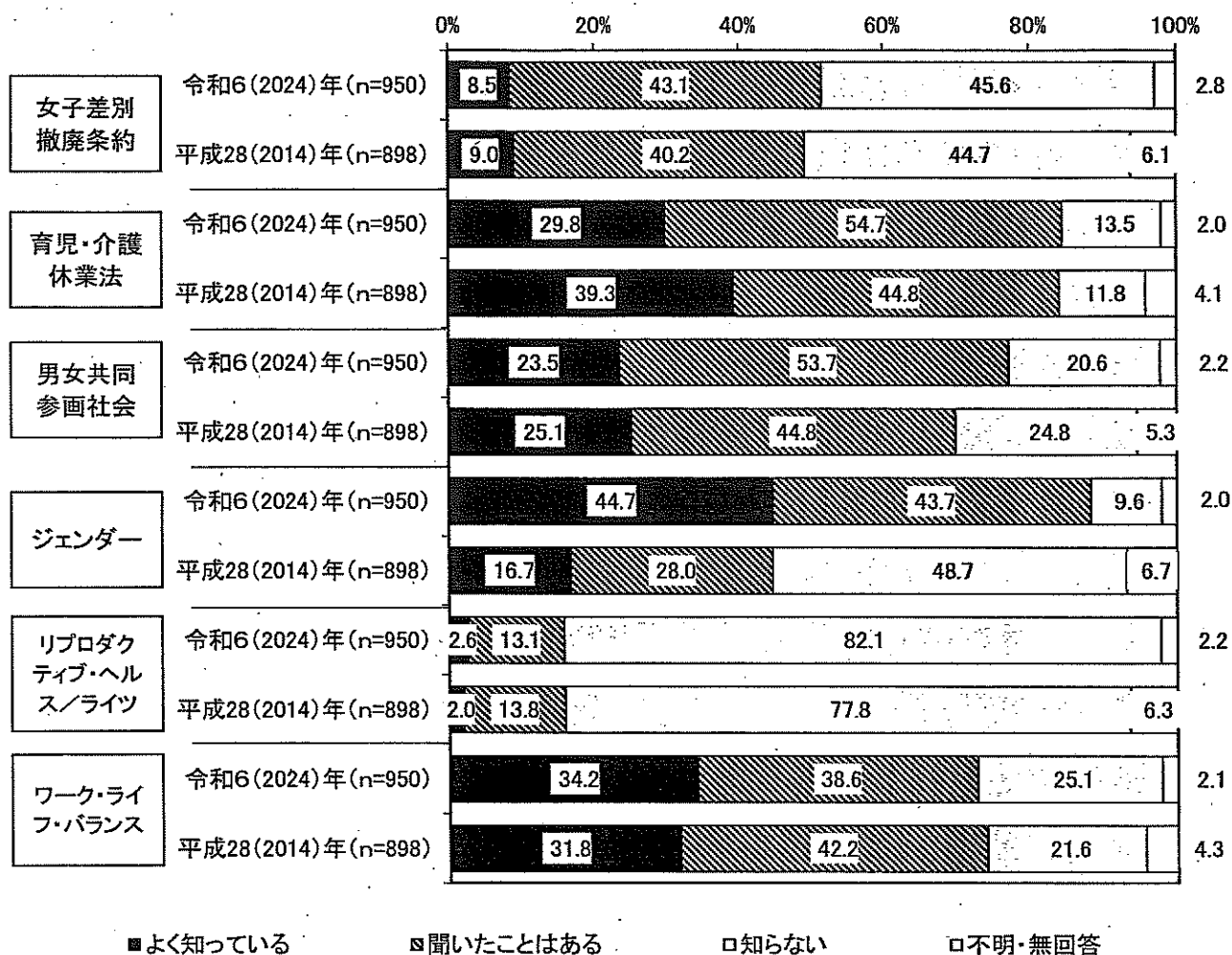
性別にみると、男女ともに「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高く、女性で64.1%、男性で56.3%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高くなっています。

単位：％		仕事優先	家事優先	プライベートな時間優先	仕事と家事優先	仕事とプライベート優先	家事とプライベート優先	仕事・家事・プライベートを両立	わからない	不明・無回答
全体(n=230)		3.0	2.2	12.2	2.6	8.3	9.1	59.6	2.2	0.9
女性	女性全体(n=117)	-	1.7	12.8	1.7	5.1	9.4	64.1	3.4	1.7
	29歳以下(n=10)	-	-	40.0	-	-	10.0	50.0	-	-
	30歳代(n=23)	-	-	8.7	-	8.7	21.7	60.9	-	-
	40歳代(n=38)	-	5.3	15.8	2.6	2.6	5.3	65.8	-	2.6
	50歳代(n=31)	-	-	9.7	-	6.5	6.5	74.2	3.2	-
	60歳以上(n=13)	-	-	-	7.7	7.7	-	61.5	15.4	7.7
男性	男性全体(n=103)	4.9	1.0	11.7	3.9	11.7	9.7	56.3	1.0	-
	29歳以下(n=9)	11.1	-	33.3	-	-	-	55.6	-	-
	30歳代(n=18)	-	5.6	11.1	-	5.6	16.7	61.1	-	-
	40歳代(n=31)	3.2	-	3.2	6.5	9.7	19.4	58.1	-	-
	50歳代(n=28)	10.7	-	17.9	3.6	17.9	3.6	46.4	-	-
	60歳以上(n=15)	-	-	6.7	6.7	20.0	-	60.0	6.7	-

◆経年比較 問9

前回調査と比較すると、〈ジェンダー〉で「よく知っている」が28.0ポイント、「聞いたことがある」が15.7ポイント高くなっています。一方、〈育児・介護休業法〉で「よく知っている」が9.5ポイント低くなっています。



※経年比較可能な項目のみ掲載。

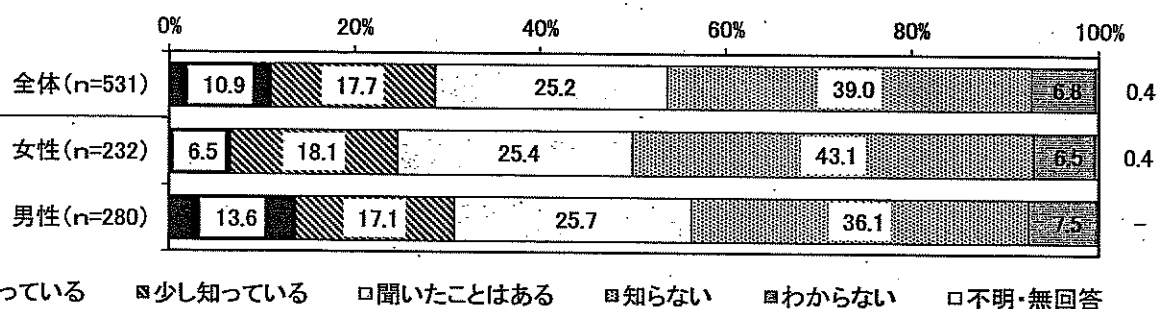
2 男女共同参画に関すること

問1 あなたは、次の男女共同参画に関する言葉のなかで、知っているものはありますか。

A 男女共同参画社会（1つに○）〔共通設問：住民意識調査…問9 C〕

男女共同参画社会の認知状況は、全体で「知らない」が39.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が25.2%、「少し知っている」が17.7%となっています。

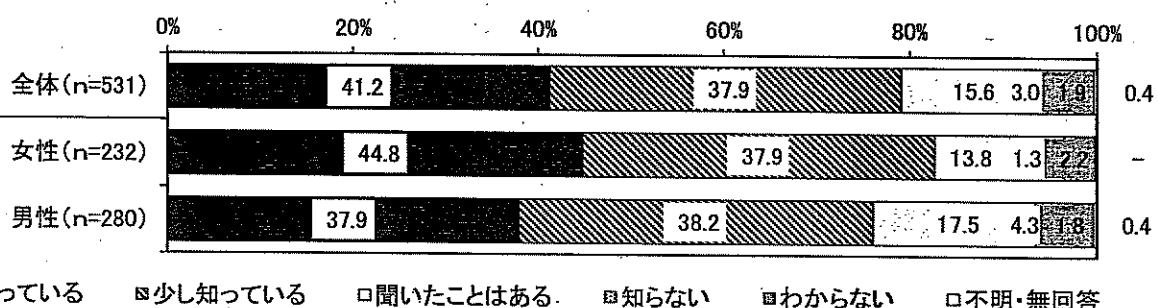
性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で43.1%、男性で36.1%となっています。



B ジェンダー（1つに○）〔共通設問：住民意識調査…問9 E〕

ジェンダーの認知状況は、全体で「よく知っている」が41.2%と最も高く、次いで「少し知っている」が37.9%、「聞いたことはある」が15.6%となっています。

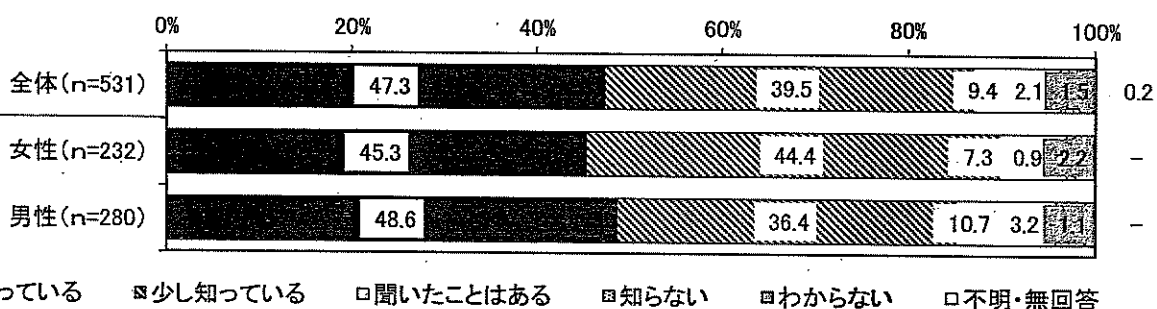
性別にみると、女性では「よく知っている」が44.8%、男性では「少し知っている」が38.2%で最も高くなっています。



C ハラスメント（1つに○）

ハラスメントの認知状況は、全体で「よく知っている」が47.3%と最も高く、次いで「少し知っている」が39.5%、「聞いたことはある」が9.4%となっています。

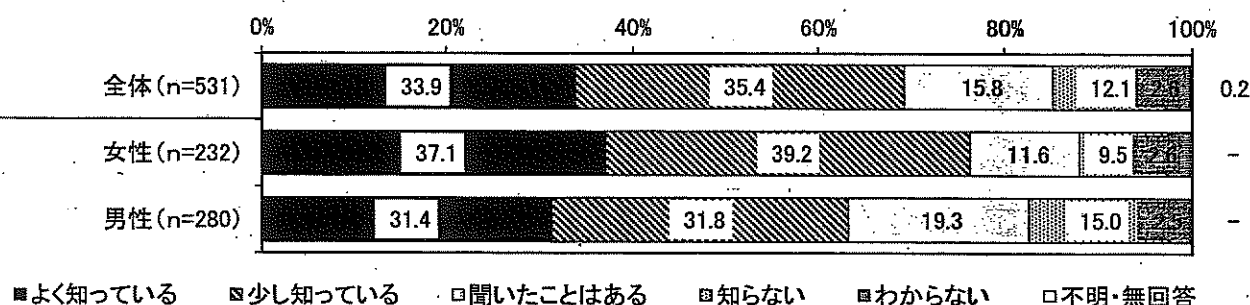
性別にみると、男女ともに「よく知っている」が最も高く、女性で45.3%、男性で48.6%となっています。



D LGBTQ+ (1つに○) [共通設問：住民意識調査…問9 F]

LGBTQ+の認知状況は、全体で「少し知っている」が35.4%と最も高く、次いで「よく知っている」が33.9%、「聞いたことはある」が15.8%となっています。

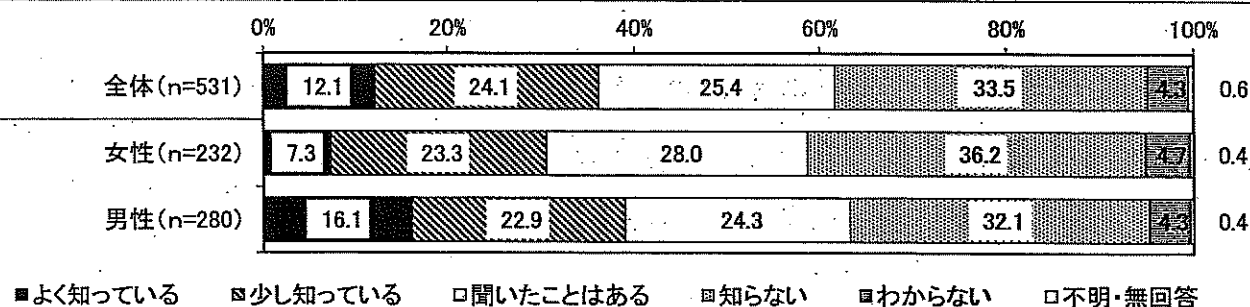
性別にみると、男女ともに「少し知っている」が最も高く、女性で39.2%、男性で31.8%となっています。



E ワーク・ライフ・バランス (1つに○) [共通設問：住民意識調査…問9 H]

ワーク・ライフ・バランスの認知状況は、全体で「知らない」が33.5%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が25.4%、「少し知っている」が24.1%となっています。

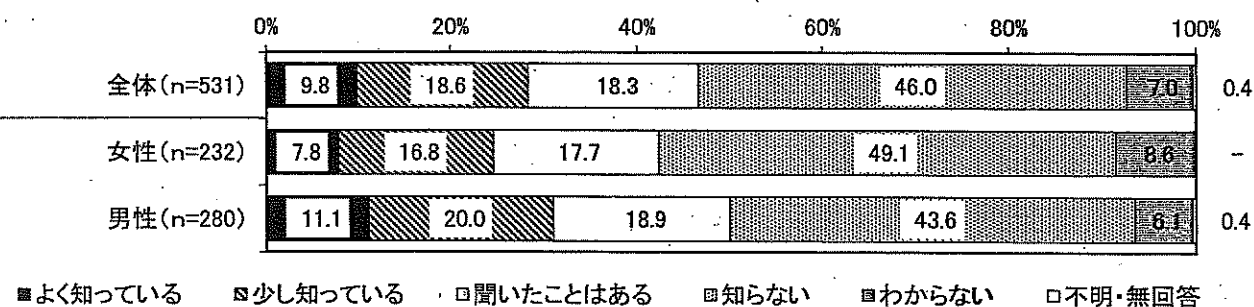
性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で36.2%、男性で32.1%となっています。



F アンコンシャス・バイアス (1つに○) [共通設問：住民意識調査…問9 J]

アンコンシャス・バイアスの認知状況は、全体で「知らない」が46.0%と最も高く、次いで「少し知っている」が18.6%、「聞いたことはある」が18.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高く、女性で49.1%、男性で43.6%となっています。

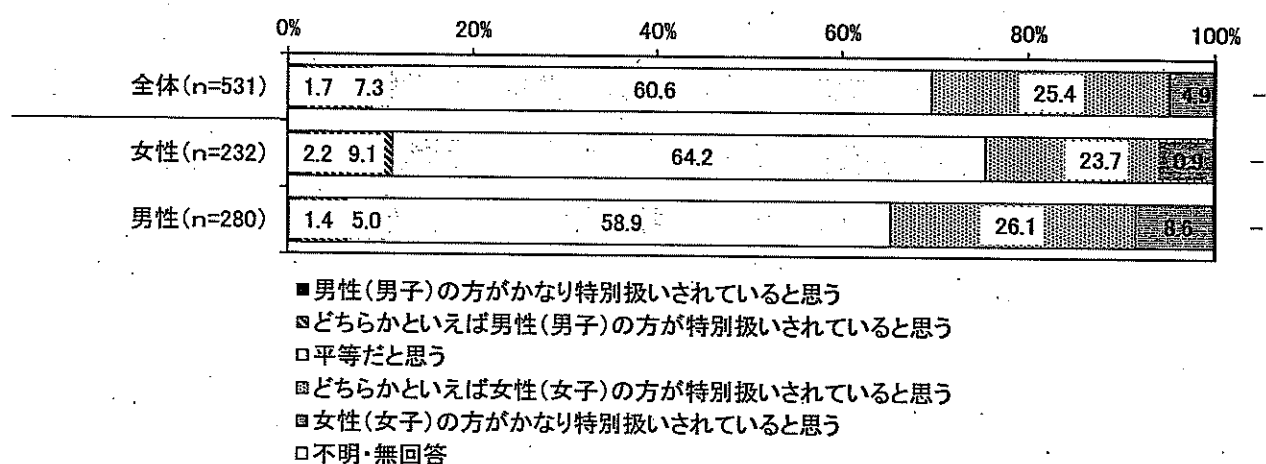


問2 あなたは、次の場面で、男性と女性の立場や地位は、平等になっていると思いますか。

A 学校生活（1つに○）〔共通設問：住民意識調査…問7 A〕

学校生活における男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が60.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が25.4%、「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が7.3%となっています。

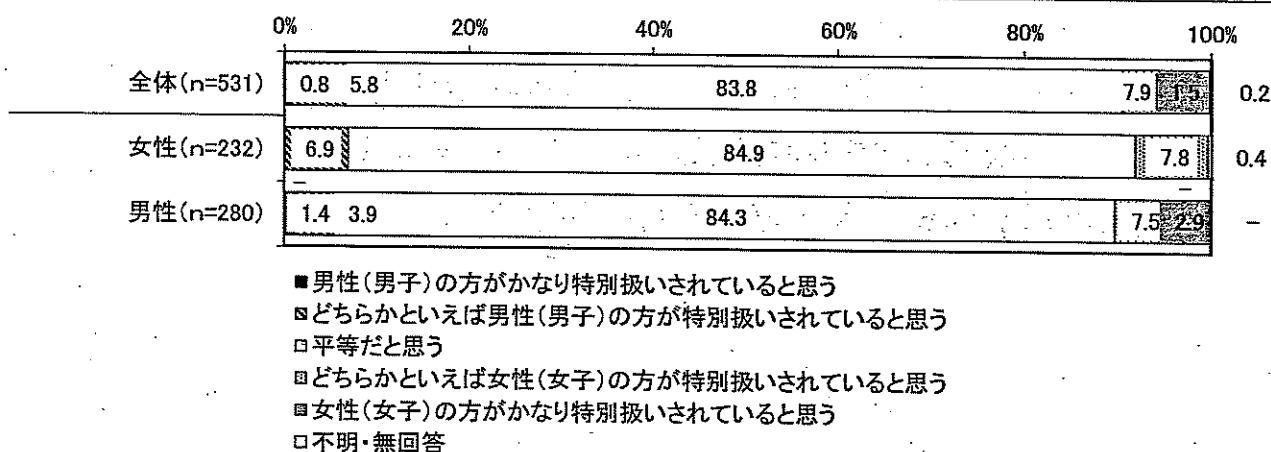
性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で64.2%、男性で58.9%となっています。



B 地域での活動やボランティア等（1つに○）〔共通設問：住民意識調査…問7 B〕

地域での活動やボランティア等における男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が83.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が7.9%、「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が5.8%となっています。

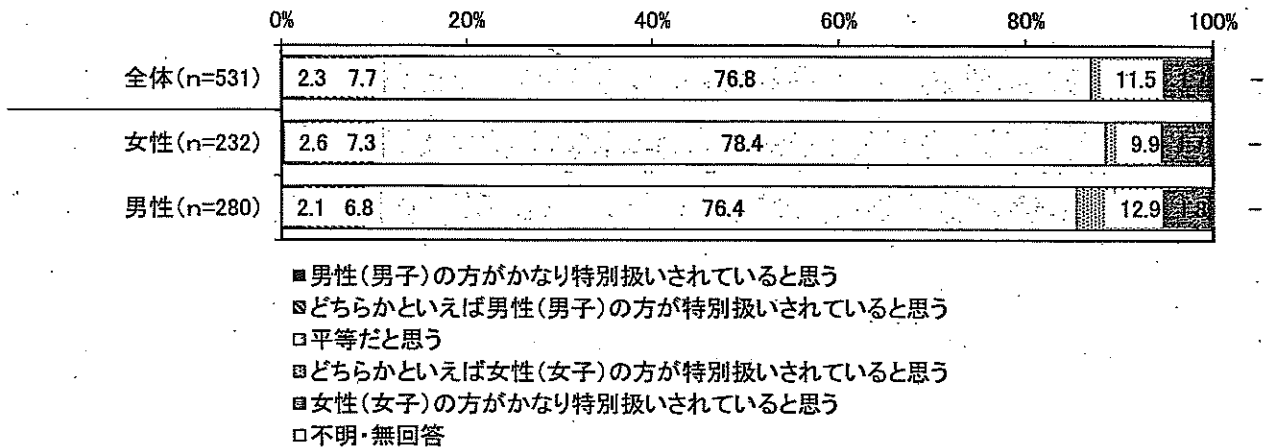
性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で84.9%、男性で84.3%となっています。



C 家庭生活（1つに○）【共通設問：住民意識調査…問7 C】

家庭生活における男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が76.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が11.5%、「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が7.7%となっています。

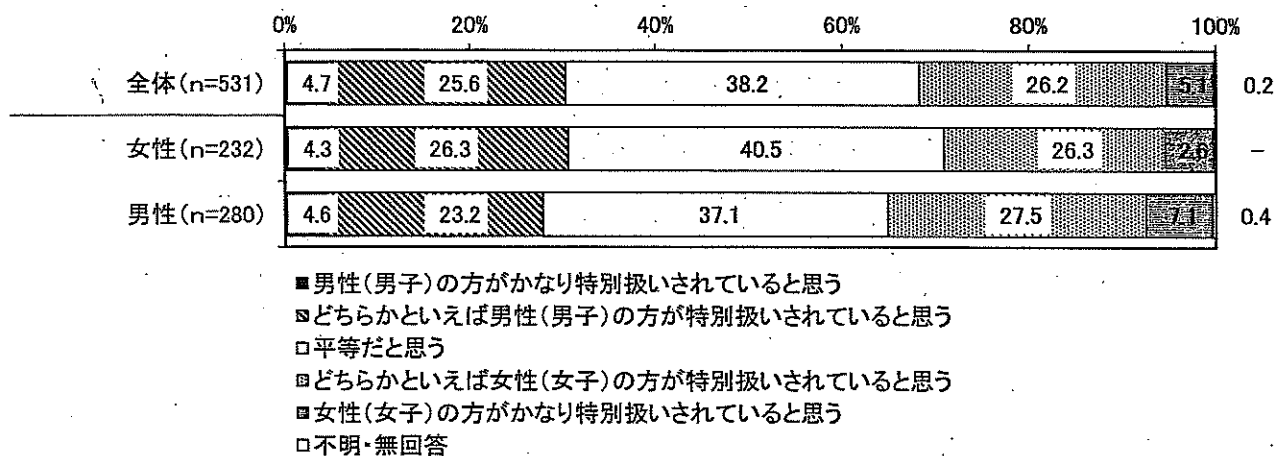
性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で78.4%、男性で76.4%となっています。



D 世の中の考え（1つに○）【共通設問：住民意識調査…問7 E】

世の中の考えにおける男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が38.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が26.2%、「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が25.6%となっています。

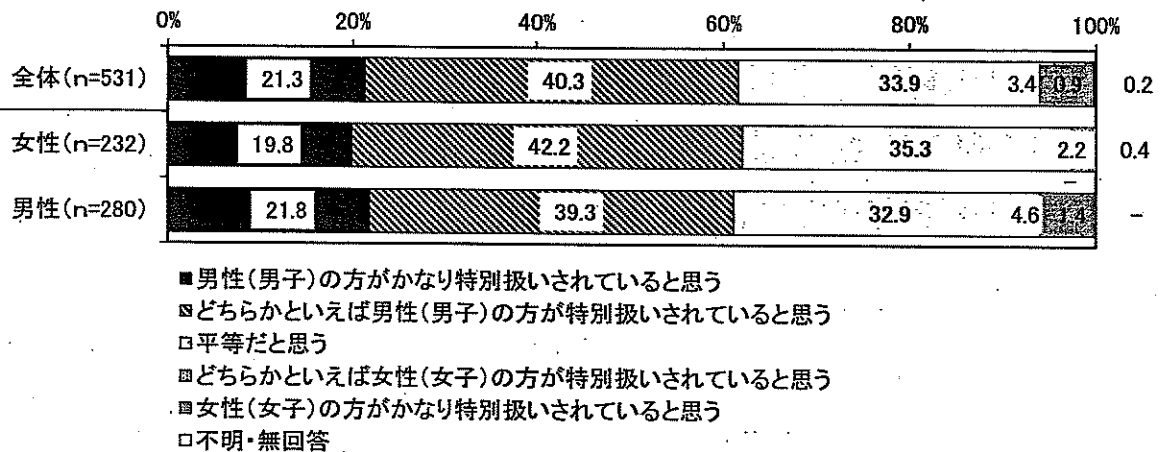
性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で40.5%、男性で37.1%となっています。



E 政治の大臣や、政治上の物ごとの決め方（1つに○）〔共通設問：住民意識調査…問7 G〕

政治の大臣や、政治上の物ごとの決め方における男性と女性の立場や地位は、全体で「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が40.3%と最も高く、次いで「平等だと思う」が33.9%、「男性（男子）の方がかなり特別扱いされていると思う」が21.3%となっています。

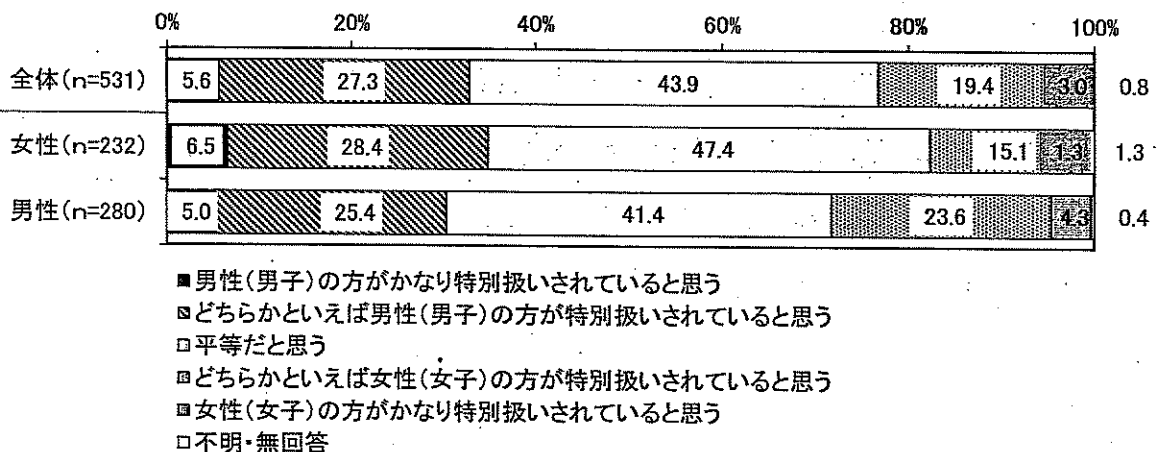
性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が最も高く、女性で42.2%、男性で39.3%となっています。



F 全体として今の日本（1つに○）〔共通設問：住民意識調査…問7 F〕

全体として今の日本における男性と女性の立場や地位は、全体で「平等だと思う」が43.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性（男子）の方が特別扱いされていると思う」が27.3%、「どちらかといえば女性（女子）の方が特別扱いされていると思う」が19.4%となっています。

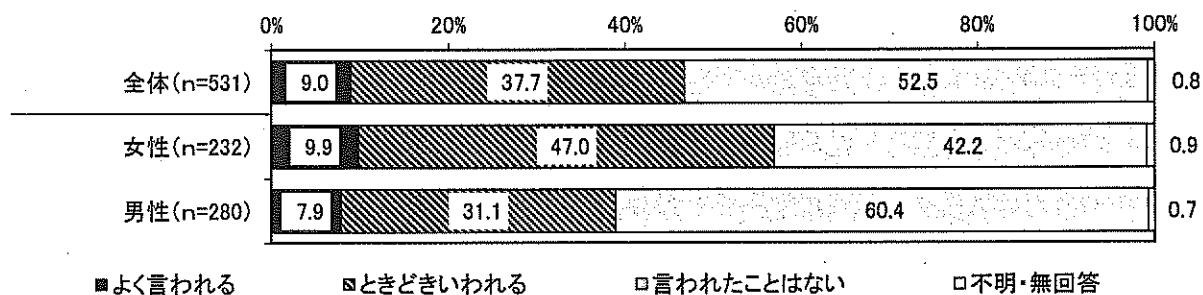
性別にみると、男女ともに「平等だと思う」が最も高く、女性で47.4%、男性で41.4%となっています。



問3 今までに「女の子だから～しなさい(しちゃダメ)」「男の子だから～しなさい(しちゃダメ)」のように言われたことはありますか。(1つに○)

「女の子だから～しなさい(しちゃダメ)」「男の子だから～しなさい(しちゃダメ)」のように言われた経験は、全体で「言われたことはない」が52.5%と最も高く、次いで「ときどきいわれる」が37.7%、「よく言われる」が9.0%となっています。

性別にみると、女性では「ときどきいわれる」が47.0%、男性では「言われたことはない」が60.4%で最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「言われたことはない」が高くなっています。



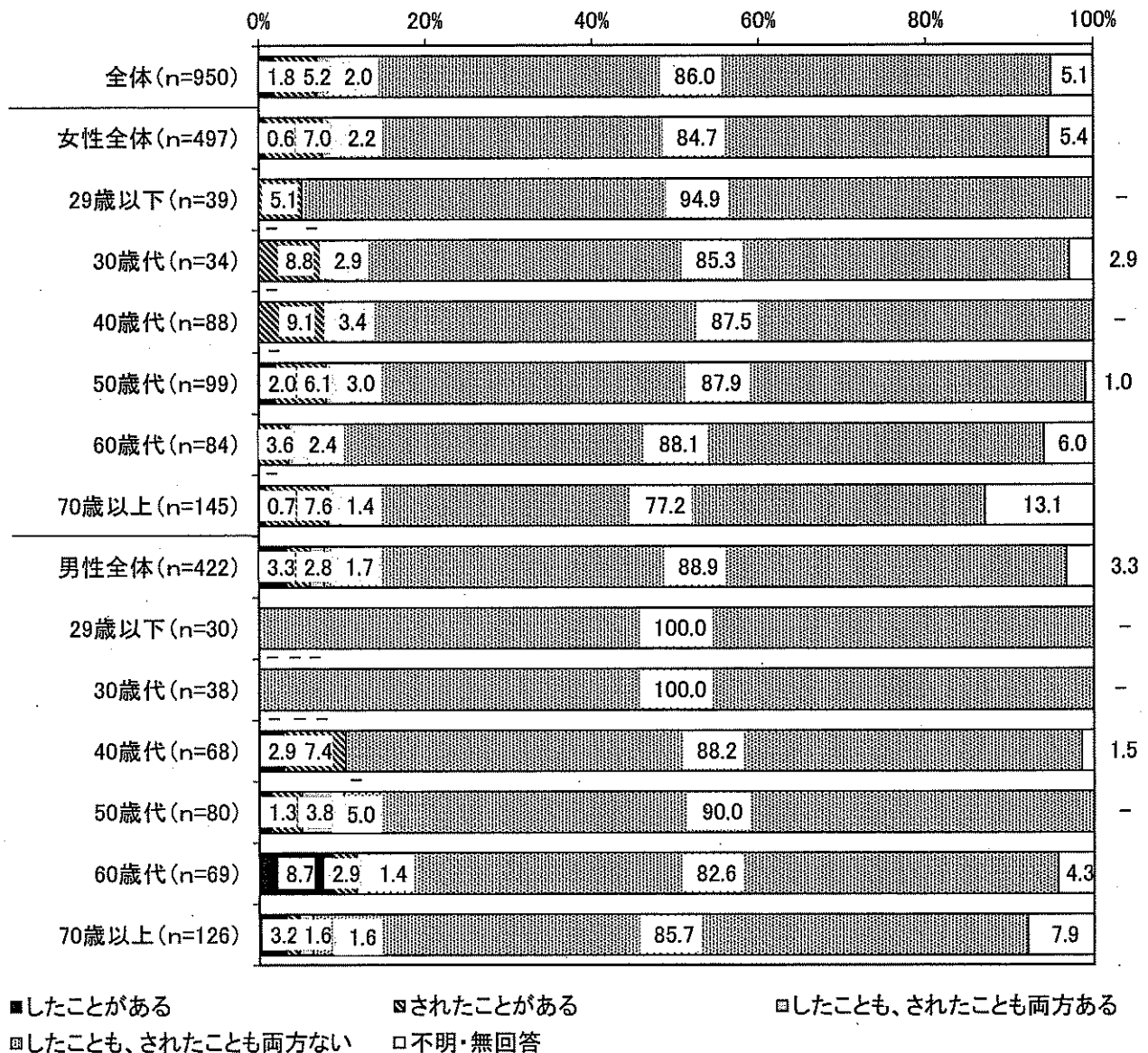
問12 これまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次にあげるA～Dのような経験がありますか。

A 身体的暴力（1つに○）

身体的暴力の経験の有無は、全体で「したことも、されたことも両方ない」が86.0%と最も高く、次いで「されたことがある」が5.2%、「したことも、されたことも両方ある」が2.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「したことも、されたことも両方ない」が最も高く、女性で84.7%、男性で88.9%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「したことも、されたことも両方ない」が最も高くなっています。



◇身体的暴力 なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど

6 性と生殖に関する健康・権利について

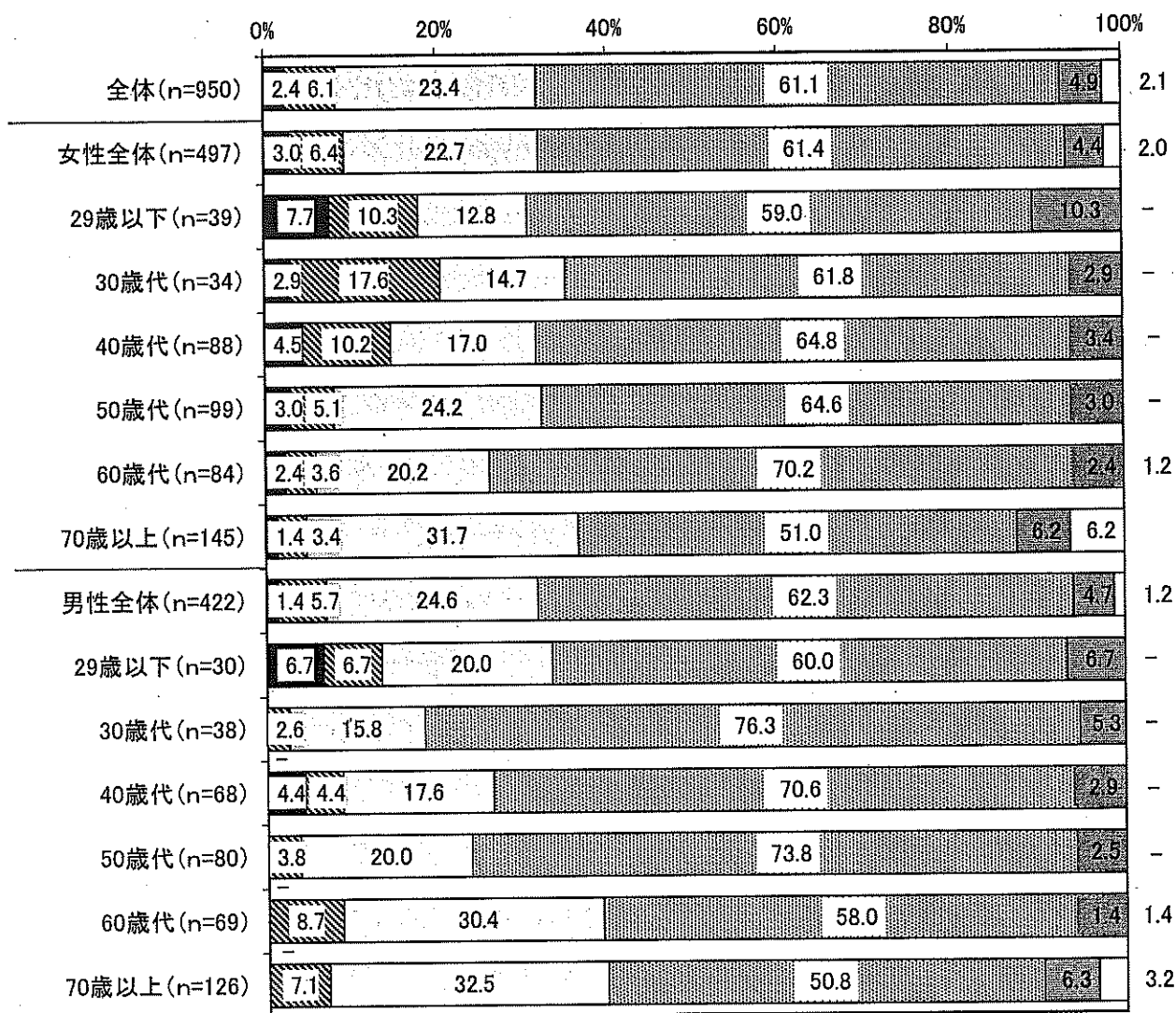
問 15 あなたは、自分の身体の性別や心の性について悩んだりしたことはありますか。(1つに○)

[共通設問：中学生調査…問 11]

身体の性別や心の性について悩んだ経験の有無は、全体で「まったくない(一度もない)」が61.1%と最も高く、次いで「ほとんどない」が23.4%、「多少ある」が6.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「まったくない(一度もない)」が最も高く、女性で61.4%、男性で62.3%となっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「まったくない(一度もない)」が最も高くなっています。



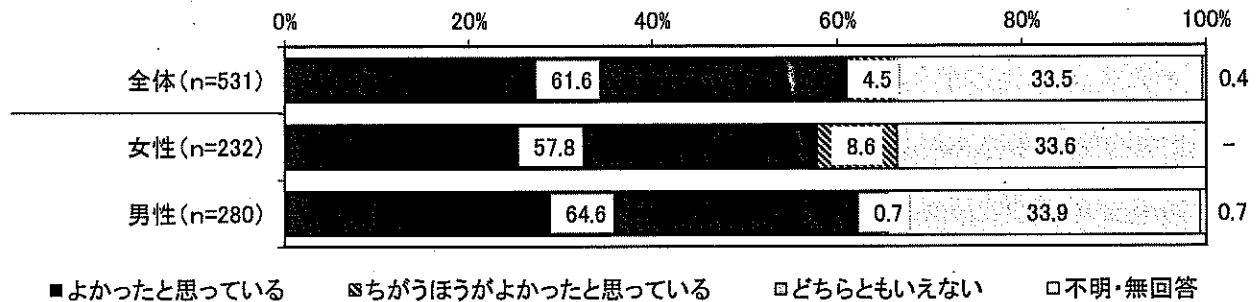
■ある ■多少ある □ほとんどない ■まったくない(一度もない) ■わからない(どちらとも言えない) □不明・無回答

4 性別や心の性に関すること

問9 あなたは、自分が男子または女子に生まれたことをどう思いますか。(1つに○)

自分が男子または女子に生まれたことをどう思うかは、全体で「よかったと思っている」が61.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が33.5%、「ちがうほうがよかったと思っている」が4.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「よかったと思っている」が最も高く、女性で57.8%、男性で64.6%となっています。

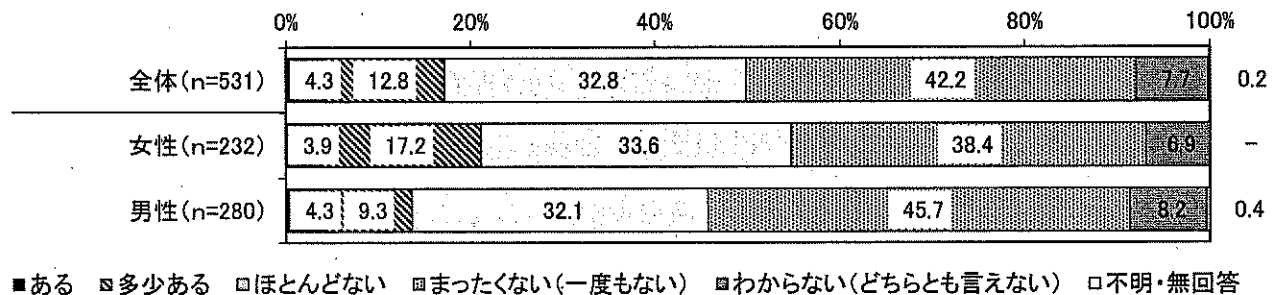


問11 あなたは、自分の身体の性別や心の性について悩んだりしたことはありますか。

(1つに○) [共通設問：住民意識調査…問15]

自分の身体の性別や心の性について悩んだ経験は、全体で「まったくない(一度もない)」が42.2%と最も高く、次いで「ほとんどない」が32.8%、「多少ある」が12.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「まったくない(一度もない)」が最も高く、女性で38.4%、男性で45.7%となっています。



問 16 あなたは、女性の生涯にわたる健康を守るために、性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで、特に何が必要だと思いますか。(2つまで○)

性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで特に必要だと思うことは、全体で「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が50.9%と最も高く、次いで「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」が45.9%、「更年期についての情報提供・相談体制の充実」が18.9%となっています。

性別にみると、女性では「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が56.7%、男性では「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」が45.5%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代以下女性と50歳代以下男性では「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」、40歳以上女性と60歳以上男性では「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が最も高くなっています。

単位：%		子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育	性や妊娠・出産についての情報提供	喫煙や薬物などの健康被害についての情報提供・相談体制の充実	性感染症（HIV、カンジダ症、クラミジア、感染など）に関する情報提供・相談体制の充実	更年期についての情報提供・相談体制の充実	その他	わからない	不明・無回答
全体(n=950)		50.9	45.9	15.3	14.6	18.9	1.9	16.9	2.1
女性	女性全体(n=497)	56.7	46.5	13.3	15.3	20.9	2.2	14.1	1.6
	29歳以下(n=39)	48.7	61.5	5.1	41.0	5.1	-	15.4	-
	30歳代(n=34)	47.1	58.8	11.8	20.6	8.8	8.8	14.7	-
	40歳代(n=88)	59.1	54.5	11.4	9.1	33.0	2.3	11.4	-
	50歳代(n=99)	59.6	50.5	9.1	13.1	25.3	3.0	12.1	-
	60歳代(n=84)	61.9	51.2	14.3	17.9	20.2	2.4	7.1	1.2
	70歳以上(n=145)	54.5	30.3	19.3	11.7	18.6	0.7	20.0	4.8
男性	男性全体(n=422)	45.3	45.5	18.2	13.3	17.8	1.2	19.9	1.4
	29歳以下(n=30)	46.7	73.3	10.0	20.0	3.3	3.3	10.0	-
	30歳代(n=38)	39.5	55.3	13.2	18.4	5.3	2.6	26.3	-
	40歳代(n=68)	45.6	51.5	25.0	17.6	13.2	2.9	14.7	-
	50歳代(n=80)	32.5	40.0	16.3	12.5	31.3	-	27.5	-
	60歳代(n=69)	55.1	49.3	15.9	15.9	20.3	-	14.5	1.4
	70歳以上(n=126)	50.0	35.7	21.4	7.9	18.3	-	19.8	4.0

7 子育てや小中学校での教育について

問 17 学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、特に何が大切だと思いますか。

(3つまで○)

学校教育の中で男女平等の意識を深めるために特に大切だと思うことは、全体で「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が53.6%と最も高く、次いで「相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする」が45.5%、「男性女性が共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導を受けられるようにする」が40.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が最も高く、女性で56.5%、男性で51.2%となっています。また、女性は男性に比べて「男性女性が共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導を受けられるようにする」「相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする」が高くなっています。

性・年代別でみると、30歳代以下男女では「相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする」、40歳代女性では「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」「相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする」、その他の年代では「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が最も高くなっています。

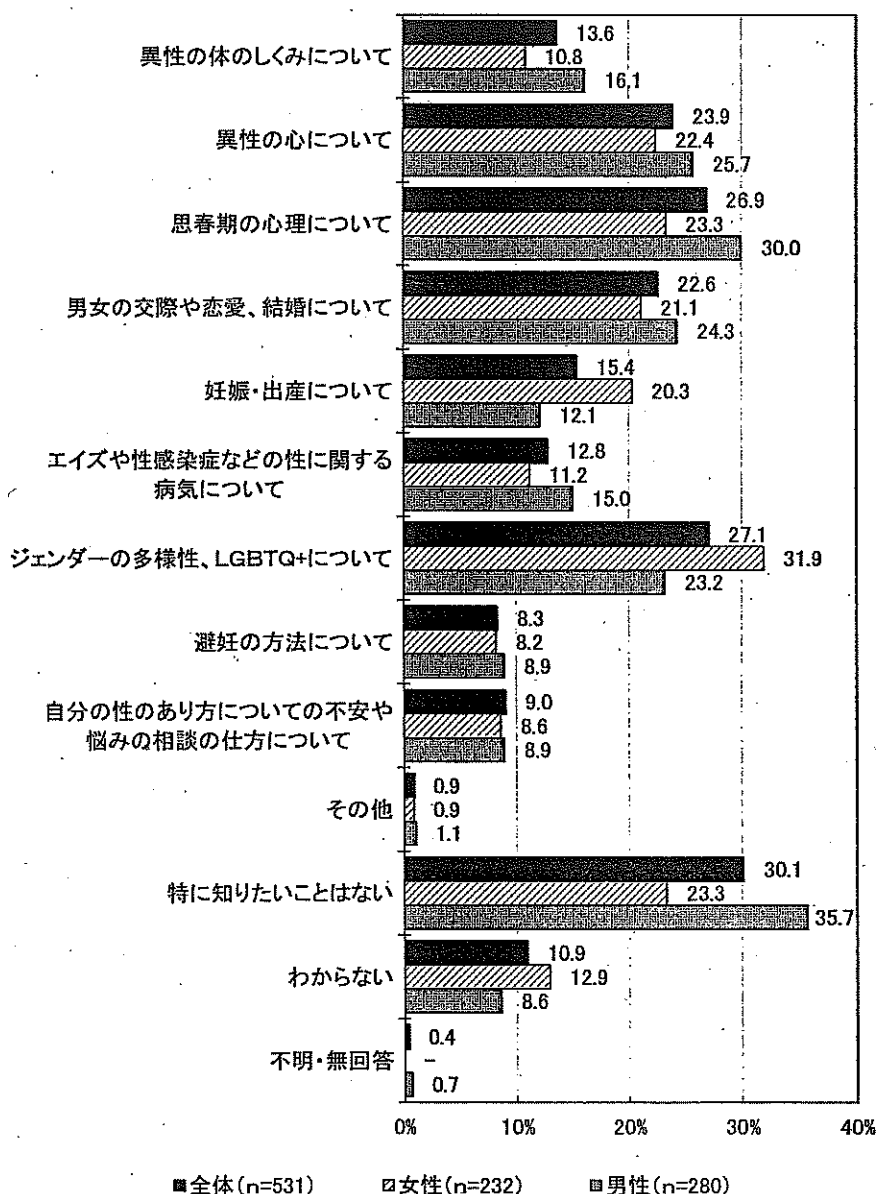
単位：％		会と男性が自分ができるよう学べる機会を設ける	導で男性女性を受けられるよう職業訓練や進路指導を受ける	よ相手へのいたわりや理解が増す	識性差別や人種差別などに問題意識を持たせる	せし国際交流や交換留学を奨励する	す教職員への男女平等研修を充実	め護者への男女平等への理解を深保	保護者や講演会を通して	その他	今のままでよい	わからない	不明・無回答
全体 (n=950)		53.6	40.8	45.5	36.2	18.0	16.7	10.9	1.9	1.8	7.1	2.7	
女性	女性全体 (n=497)	56.5	45.9	51.1	33.8	19.5	14.9	9.9	1.4	1.0	7.0	2.6	
	29歳以下 (n=39)	59.0	35.9	66.7	33.3	10.3	10.3	10.3	2.6	2.6	-	-	
	30歳代 (n=34)	47.1	47.1	50.0	41.2	17.6	8.8	11.8	-	-	14.7	-	
	40歳代 (n=88)	60.2	51.1	60.2	31.8	25.0	8.0	8.0	1.1	2.3	4.5	1.1	
	50歳代 (n=99)	57.6	47.5	44.4	35.4	17.2	14.1	14.1	3.0	-	7.1	-	
	60歳代 (n=84)	64.3	54.8	56.0	34.5	22.6	17.9	6.0	-	-	3.6	1.2	
	70歳以上 (n=145)	51.0	38.6	44.8	31.7	19.3	21.4	10.3	1.4	1.4	10.3	6.9	
男性	男性全体 (n=422)	51.2	35.8	40.3	40.0	15.9	19.0	12.3	2.4	2.8	6.6	1.2	
	29歳以下 (n=30)	50.0	23.3	70.0	36.7	10.0	16.7	13.3	3.3	-	3.3	-	
	30歳代 (n=38)	39.5	31.6	47.4	36.8	15.8	21.1	7.9	5.3	10.5	13.2	-	
	40歳代 (n=68)	52.9	38.2	42.6	41.2	20.6	17.6	13.2	1.5	2.9	2.9	-	
	50歳代 (n=80)	47.5	38.8	31.3	36.3	20.0	16.3	13.8	1.3	5.0	10.0	-	
	60歳代 (n=69)	58.0	31.9	39.1	56.5	10.1	15.9	11.6	1.4	1.4	4.3	-	
	70歳以上 (n=126)	51.6	38.1	38.1	36.5	15.1	23.8	11.9	2.4	0.8	6.3	4.0	

6 性教育に関すること

問 15 あなたが、体や心について、学んでいきたいことは何ですか。(いくつでも○)

体や心について、学んでいきたいことは、全体で「特に知りたいことはない」が30.1%と最も高く、次いで「ジェンダーの多様性、LGBTQ+について」が27.1%、「思春期の心理について」が26.9%となっています。

性別にみると、女性では「ジェンダーの多様性、LGBTQ+について」が31.9%、男性では「特に知りたいことはない」が35.7%で最も高くなっています。また、男性は女性に比べて「特に知りたいことはない」が高くなっています。



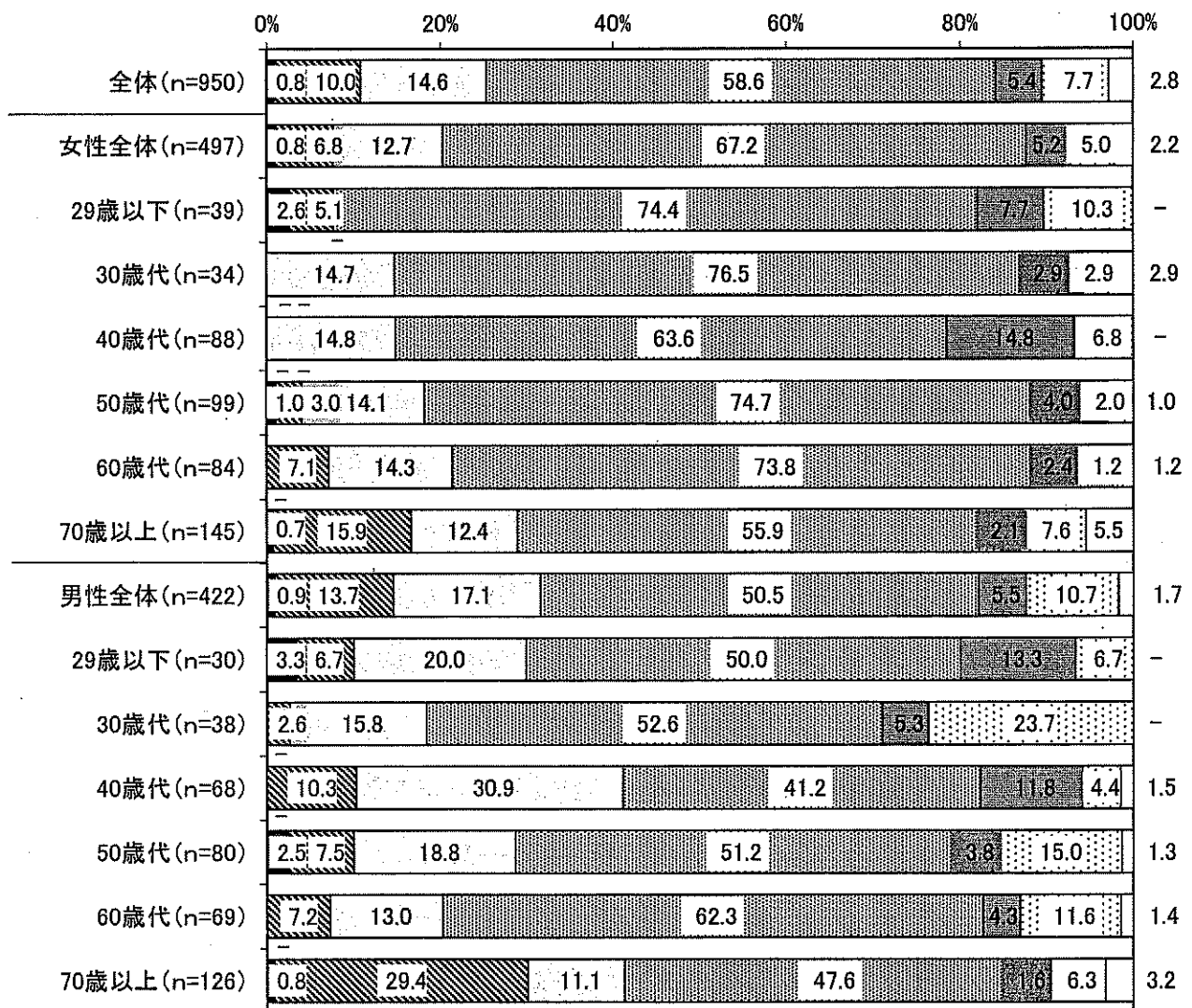
8 介護について

問 19 高齢者や病人の介護は、主として女性（妻、娘、息子の配偶者）の役割になりがちです。
このことについてあなたはどのように思いますか。（1つに○）

介護が主として女性の役割になりがちなことについてどう思うかは、全体で「男性も積極的に取り組む方がよい」が58.6%と最も高く、次いで「労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない」が14.6%、「介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい」が10.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「男性も積極的に取り組む方がよい」が最も高く、女性で67.2%、男性で50.5%となっています。また、女性は男性に比べて「男性も積極的に取り組む方がよい」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「男性も積極的に取り組む方がよい」が最も高くなっています。また、他の性・年代に比べて40歳男性では「労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない」、70歳以上男性では「介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい」が高くなっています。



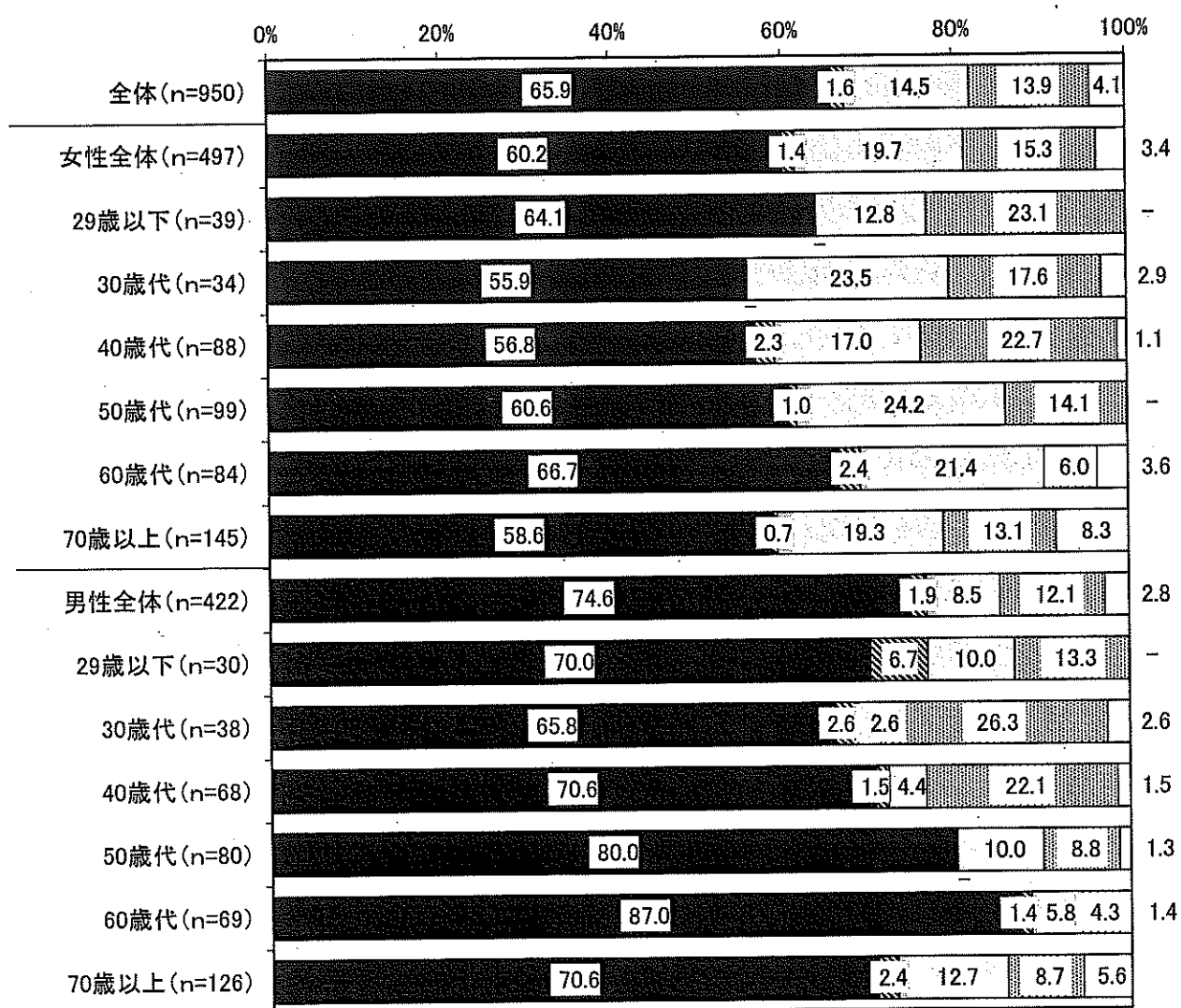
- 女性としての役割として当然だと思う
- 介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい
- 労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない
- 男性も積極的に取り組む方がよい
- その他
- わからない
- 不明・無回答

問 22 地域活動（自治会やボランティア等）に、女性がリーダーとして参画することについてどのようにお考えですか。（1つに○）

地域活動に女性がリーダーとして参画することについての考え方は、全体で「女性も積極的に参画するほうがよい」が65.9%と最も高く、次いで「女性が参画することには賛成だが、現実には難しい」が14.5%、「わからない」が13.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「女性も積極的に参画するほうがよい」が最も高く、女性で60.2%、男性で74.6%となっています。また、女性は男性に比べて「女性が参画することには賛成だが、現実には難しい」が高く、男性は女性に比べて「女性も積極的に参画するほうがよい」が高くなっています。

性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で「女性も積極的に参画するほうがよい」が最も高くなっています。



- 女性も積極的に参画するほうがよい
- 女性が参画することには賛成だが、現実には難しい
- 不明・無回答
- ▨ 男性に任せたほうがよい
- ▧ わからない

11 白井市への要望について

問 24 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(5つまで○) [共通設問：市内在勤者調査…問 23, 中学生調査…問 16]

男女の共同参画を進めるために市が特に力を入れて取り組むべきだと思うことは、全体で「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が44.4%と最も高く、次いで「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が43.3%、「学校での男女平等教育を進める」が30.7%となっています。

性別にみると、女性では「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が49.7%、男性では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が42.9%で最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が高くなっています。

性・年代別でみると、50歳代と70歳以上女性、50歳以上男性では「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」、その他の年代では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が最も高くなっています。

6 白井市への要望について

問 23 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(5つまで○) [共通設問：住民意識調査…問 24, 中学生調査…問 16]

男女の共同参画を進めるために市が特に力を入れて取り組むべきだと思うことは、全体で「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が57.4%と最も高く、次いで「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」が45.7%、「ひとり親(母子・父子)家庭を援助する」が31.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が最も高く、女性で61.5%、男性で54.4%となっています。また、男性は女性に比べて「市全体の男女共同参画を推進するための条例を制定する」が高くなっています。

性・年代別でみると、29歳以下女性では「すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる」「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」、60歳以上女性、40歳代男性では「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」、30歳代男性では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」「ひとり親(母子・父子)家庭を援助する」、60歳以上男性では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」「訪問介護、ショートステイ、デイサービスなどの介護サービスを充実させる」、その他の年代では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が最も高くなっています。

7 白井市が取り組むべきこと

問 16 あなたは、性別にかかわらず、誰もが自分らしく輝けるまちにするために、白井市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(5つまで選ぶ)

[共通設問：住民意識調査…問 24, 市内在勤者調査…問 23]

性別にかかわらず、誰もが自分らしく輝けるまちにするために、市が特に力を入れて取り組むべきだと思うことは、全体で「男女ともに仕事と家庭を両立できるようにする」が46.1%と最も高く、次いで「仕事とプライベートのどちらも大切にできるような働き方を広める」が41.6%、「性別にかかわらず職業や仕事の内容を選べるよう、会社などに呼びかける」が32.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女ともに仕事と家庭を両立できるようにする」が最も高く、女性で51.3%、男性で41.4%となっています。また、女性は男性に比べて「パートナーシップ宣誓制度やファミリーシップ制度を導入する」「仕事とプライベートのどちらも大切にできるような働き方を広める」「男女ともに仕事と家庭を両立できる環境をつくる」が高くなっています。

